

カボチャの露地有機栽培における有機肥料の施用法と生育、収量

福島県農業試験場 相馬支場
平成16年度農業試験場成績概要

1 部門名

野菜－カボチャ－施肥法、有機栽培
分類コード 03-03-13770000

2 担当者

菅田 充・中山秀貴・大和田正幸

3 要旨

カボチャの露地有機栽培において、有機肥料を畝部分のみに施肥する部分施肥（以下部分施肥）と全面施肥の肥効を検討した。

品種は、「九重栗EX」を用いた。有機肥料区の基肥は、なたね油粕、鶏糞を使用し、窒素成分を化成肥料を使用した慣行栽培区と概ね同じに調整した。有機肥料区の追肥は、6月3日と17日に有機入り複合肥料643号（ともだち643号）を2回、通路部分に施用した。慣行区の追肥は、硝磷加安S842（野菜追肥S842）を使用した。

- (1) 部分施肥を行った有機栽培区と慣行栽培区の生育を比較すると、有機栽培区の初期生育は慣行栽培区よりやや劣ったが、6月以降は回復し、収量はほぼ同等となり、両区とも平均一果重が2,300kg、収量が1,600kg/10a、規格は2L以上が8割を占めた。
- (2) 有機肥料を使用した部分施肥区と全面施肥区を比較すると、生育は部分施肥区、全面施肥区ともほぼ同じ傾向であったが、平均一果重及び収量は部分施肥区が優った。一方、全面施肥区では追肥量を多くしても収量は部分施肥区程度まで上がらなかった。
- (3) 部分施肥は通路部分の肥料も畝部分に集中的に施用するため、畝部分の施用量が多くなるが、この程度の施肥レベルでは初期の生育障害は見られず、全面施肥より高い収量を得たと思われる。なお、基肥の施用から定植までの間隔は15日間であった。

4 その他の資料等

なし